

日野市郷土資料館講座 たきび祭前夜祭イベント

たつみせい
たきびの詩人 巽 聖歌

お話と朗読・歌のつどい



☆巽聖歌を児童文学の世界に導いた

あべすえお
童話作家安倍季雄☆

たきび祭は、今年で14回目を迎えます。

今年の前夜祭では、童話作家で編集者でもあった安倍季雄（1880-1962）を取り上げます。『赤い鳥』で北原白秋に認められるよりも前、巽聖歌の文学の才能を最初に見出してくれたのは、時事新報社で『少年』『少女』の編集長をしていた安倍季雄でした。

巽聖歌が大正12年（1923）に『少年』に投稿した童話「山羊と善兵衛の死」を高く評価し、東京で文学活動をすることを勧めてくれたのでした。聖歌がまだ18歳の時の事です。安倍は物心両面で聖歌の成長を支えてくれた、まるで母のような存在でした。

おなじみの朗読の会「うづき」の皆さんに、新たに発見された幻の処女作「山羊と善兵衛の死」や、いくつかの作品を朗読していただきます。

歌は、地元で活躍しているユニット「ハピネス39（サンキュー）」が、今年も登場します！「たきび」など、聖歌の童謡をみんなで歌いましょう！

日時：令和元年12月6日（金）午後3時～5時30分

場所：旭が丘地区センター（旭が丘中央公園内）

（JR豊田駅北口より平山工業団地循環バス、

旭が丘中央公園下車徒歩3分）

* お話「巽聖歌と安倍季雄」（郷土資料館職員）

* 朗読 朗読の会「うづき」

* 歌 ハピネス39

定員50名 無料

（申し込み不要・直接会場へお越しください）



* 午後5時より、たきび詩碑前でキャンドルサービスを行ないます。

童謡「たきび」を作詩した巽聖歌は、戦後の25年間を日野市旭が丘で暮らし、昭和48年4月24日、日野市立病院で68年の生涯を終えました。たきび詩碑のある旭が丘中央公園で、巽聖歌を記念して行なわれている「たきび祭」（12月7日）も、今年で14回目を迎えます。平成22年1月からは、豊田駅発着メロディーも童謡「たきび」になりました。

* 問合せは 日野市郷土資料館（Tel.042-592-0981）へ